



「"お雛さまを飾ってみよう"から早10年。  
たくさんの人と交流できたことが喜びです。」

「商店街の活性化ということもありますが、お雛さまを店先に飾っていると、『きれいですね』というお客さんからの声に自然と会話が弾みます。そんな人と人との交流が私たちの喜びになってきたんですよ。」と語る佐々木雅史さんは、今年で10回目を迎える厚狭駅前商店街の「おひなさまめぐり」を立ち上げから支えてこられた一人です。今でこそ商店街に、およそ50か所の展示会場が並ぶこのお祭りですが、そのスタートは9年前。佐々木さんを中心とした数店舗が、「店先にお雛さまを飾ってみよう」と始めたささやかな試みがきっかけでした。

そんな「おひなさまめぐり」も賛同者の数を増やしながらい、商店街に欠かせない行事にまで成長すると、参加者からは様々な工夫やアイデアが飛び出すようになりました。お雛さまを飾るだけでは寂しいと取り組んだ"さげもん"作りもその一つ。「柳川さげもん」で有名なこの"吊り飾り"を、自分たちで作って

みようとしたのは商店街の"おかみさん"でした。「最初は"さげもん"なんて実物を誰も見たことがなかったんですよ。」という佐々木さんの言葉のとおり、"さげもん"作りはゼロからの出発。しかしそこは商店街の女性陣、持ち前のバイタリティで研究を重ね、今ではオリジナルの"さげもん"も登場するなど、ねたろうの"さげもん"は、お雛さまと並ぶ祭りの"よびもの"となりつつあります。

「商店というのは"旦那さん"以上に、実は"おかみさん"の力が大きかったりするんです。」と冗談混じりに語る佐々木さんが、商店街の元気な女性たちも巻き込んで、手づくりで盛り上げてきた「おひなさまめぐり」。華やかな雛飾りで厚狭の町筋が彩られるのは3月。今年はみなさんもでかけてみてはいかがでしょうか。

## 佐々木 雅史さん

千町三

厚狭駅前商店街で書店を営む傍ら、9年前に「ねたろうの里 おひなさまめぐり」をはじめ。イベントの立ち上げから今日まで、中心的な役割を果たし、現在は、「おひなさまめぐり実行委員会」の委員長を務める。

## 手づくりの祭り～ねたろうの里 おひなさまめぐり～

### 「おひなさまめぐり」の楽しみ方

3月の「おひなさまめぐり」期間中は、およそ1kmにわたって続く厚狭駅前商店街に沿って、50か所を超える展示・販売会場が並び、たくさんのお雛さまが飾られます。「雛飾り」と一口にいっても、その年代や地域によってそれぞれ特徴があるもの。「おひなさまめぐり」では、古いものなら昭和初期のものもあり、様々な年代のお雛さまや手づくり雛が展示されます。あなたにとって懐かしい、そんなお雛さまに出会えるかもしれませんよ。

今年の「おひなさまめぐり」の日程（例年：3月1日から20日あたり）については、今後、市の広報でもお知らせする予定です。

▶昭和20年代のお雛さま。今では珍しい「御殿飾」といわれるお雛さまです。この他にも様々なお雛さまが飾られます。



▶手づくりの吊り飾り"さげもん"。多くの展示会場では、色とりどりの"さげもん"が吊り下げられ、「おひなさまめぐり」を盛り上げます。

